

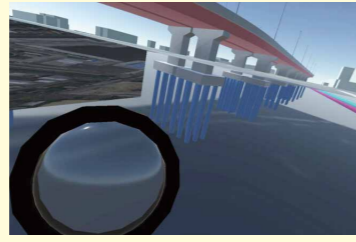
令和3年度当初予算 土木部関係新規事業の紹介

長崎県版インフラDX推進事業費(三次元データ活用推進)【予算額 4,976千円】

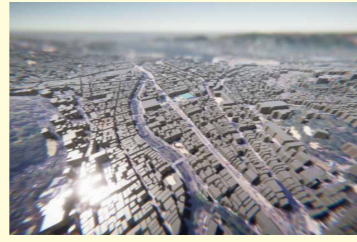
目的

本事業は、工事等で使われる平面的な図面を立体的な図面(三次元)へ移行を促すことを目的とした事業です。

立体的な図面(三次元)は、専門的な知識がない方々でも直感的に理解することができます。



高架橋の基礎構造(不可視部分)



中島川周辺(立体化した建物)

事業内容

- 令和3年度は、一般的な三次元データを活用し、道路の計画図や立体化した建物などで構成される図面を作成します。
- 作成時の実証結果をもとに他事業への展開を想定したルール作りを行います。

DXによる生産性の向上や計画的な事業執行を推進

生産性の向上

三次元データによる図面は、ICT施工の促進に繋がります。
ICT施工は、現場管理の効率化による生産性の向上に繋がります。

計画的な事業執行

三次元データは、立体的な表現になるので直感的理解に繋がるため、地元説明会などの活用も想定しています。



ドローン等による3次元測量

ウォーカブルなまちづくり推進事業費【予算額 16,300千円】

目的

まちなかなどで楽しく歩ける空間や環境を創出し、徒歩や自転車等による回遊性を高めることで、まちの賑わい向上や身体活動量の増加による健康寿命の増進を図る。

事業概要

- 「ウォーカブルなまちづくり」を推進するため、市町や民間の方々と連携を図りながら、公共空間利活用等に関する先導的なモデル事業の取り組みを推進する。
- モデル事業での検証結果をノウハウ集として取りまとめ、市町へ情報提供することで市町の取組を促し、「居心地がよく歩きたくなるまちなか」空間を県内各地に創出する。

事業内容

- 「ウォーカブルなまちづくり」を導入する上での課題等を抽出するため、数地区選定し、社会実験等のモデル事業を実施
- 事例やノウハウ集を作成し、市町や民間を支援



地域の賑わい創出を推進・健康長寿日本一を推進

令和2年12月 厳原港国内ターミナルビル供用開始!! (厳原港離島ターミナル整備事業)～安定した離島生活の確保に向けて～

整備内容

長崎県対馬市には重要港湾1港、地方港湾9港、計10港の港湾が存在しており、特に重要港湾である厳原港は、対馬島の人流・物流の中心港として、島民にとって必要不可欠な港湾のひとつとなっています。

しかし以前の厳原港は背後用地が狭く、人流と物流が狭いエリアで混雑し、港湾利用者にとって、大変危険なものでした。また、ターミナルの待合室は狭く、利用客で溢れており、駐車場までの距離が遠いため、離れた駐車場まで歩く必要があるなど、利用客にとって不便な港湾となっていました。

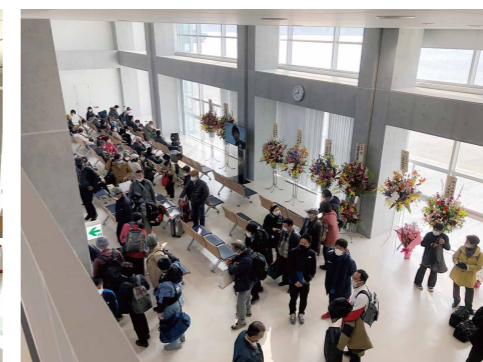
以上のことから、物流機能と人流機能を分離(平成22年に物流機能は移転)し、荷役の効率化や乗降客の安全性の確保を行うとともに、国内航路と国際航路の発着場所を入れ替え、国内ターミナルビルの新築や国際ターミナルビルの改築、岸壁整備などにより、旅客の利便性向上を目指しているところです。

この度、厳原港国内ターミナルビルやその周辺における岸壁、駐車場、道路の整備が完了し、令和2年12月に供用開始することができました。

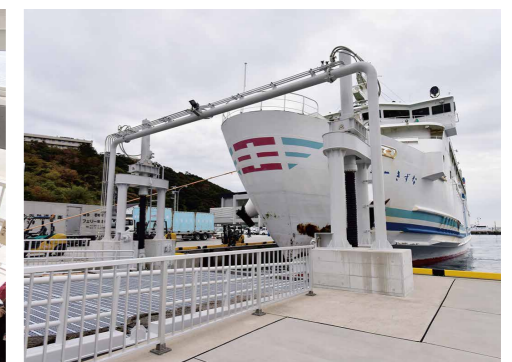
これにより、港湾利用の安全性・利便性が向上され、地方創生の一助になることが期待されます。



供用式



利用者で賑わうターミナル



国内フェリー就航状況